

令和元年度 加納中学校 学校経営計画

学校の教育目標『自ら学び、豊かな心とたくましく生きる力を持つ生徒の育成』

学校経営 ビジョン	「命を大切にできる学校」「楽しさを実感できる学校」を柱に、チーム 加納中で学校、生徒、保護者、地域の強み（よさ）を生かした魅力ある学校づくりを推進し、学校教育目標の具現化を目指す。
--------------	--

【自己評価書】 4段階評価： 4 期待以上 3 ほぼ期待どおり 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

【学校関係者評価書】

評価 項目	評価指標	具体的数値目標	方策・手立て	自己評定 指標別 総合	結果の考察・分析及び改善策	評定	学校関係者評価コメント
知育	授業力を高め、学力を向上させる。	生徒による学校生活アンケートで、毎日の授業は「わかる」「楽しい」が80%以上である。	・学力の定着と向上を図るために「学びのサイクル」に基づいた授業の展開を、どの教科においてもおおむね統一して実施する。	3	生徒アンケート「毎日の授業がわかる・楽しい」3・4段階 83% 学力の定着を図るために「学びのサイクル」に基づいた授業を展開しているが、おおむね一定の効果が見られるようになってきた。この取組を今後も継続していく。		・生徒の中に、わからないところを手を挙げて聞いたり、先生に後で聞けたりできずわからないまま進んでいることがあった。 ・学力の定着を図るため、本校独自の授業改善を行う方策として「学びのサイクル」の実施により、成果をあげており評価できる。また、生徒の個人差に応じた学力の定着のレベルについては、特段の対策と努力を講じて取組む必要があると考える。 ・1、2段階の生徒の理由について、さらに個別指導がなされれば、先生方の100%という努力もむくわれるのではないのでしょうか。 ・継続をお願いします。
	全職員が一人一授業を実践し、職員間で指導内容や指導方法を共有し、指導力を高め合う。	生徒による学校生活アンケートで、毎日の授業は「わかる」「楽しい」が80%以上である。	・ICTの活用や学習課題の明確な提示など、授業改善を行う。 ・校内研修と連携し、全職員が1回以上の研究授業を行い授業力向上を目指す。	3	昨年度に続き、各教科でICTを積極的に活用している。「しっかり理解する」「じっくり考える」「はっきり表現する」の提示カードを使用し、わかる授業づくりに取り組む。 11月より一人1授業を行っていく。	3 3 3 3	・全職員で、きちんと話し合い報告、連絡、相談ができています。 ・本校の「学びのサイクル」の実施は、ICTの活用を図ることで、一層の相乗効果を得られると考える。また、教材研究を行なうに当たって、ICTの特色を効果的に活用する教材分析が強く求められる。今後、より一層の実践的研究を期待したい。 ・先生方、3、4段階100%という努力は素晴らしいと思います。研究授業を実践し、さらに授業力の向上を、目指してください。 ・クラスで自分の意見をはっきり表現できる雰囲気をつくることも必要ではないでしょうか。
	学習規律の徹底を図り基本的な学習習慣を確立させる。	・生徒による学校生活アンケートで『「2分前着席」「1分前黙想」など学習ルールが守られている』が90%以上である。	・年度当初に学習指導集会を開き、生徒に取組の説明を行う。 ・学習委員会の活動を活性化し、生徒の自治的な活動を通して学習規律を向上させる。 ・宅習内容の充実を目指し、日々点検や指導を行う。	3	学習委員会を中心に、「時間を守る」等の点検活動を計画し、全校生徒で取り組んでいる。生徒アンケートでは、学年により評価が異なっている。	3 3 3 3 3	・2分前着席、1分前黙想はきちんとできている。 ・授業の成果をあげる方策の一つとして学習規律の訓練は大変重要な要素である。共通理解・共通実践が強く求められる。また、生徒のアンケート結果によると学年により評価が異なっているのはなぜか原因を追究して改善を図る必要がある。 ・習慣化させるには、学年当初の段階でしょうか？100%目指して4、5月先生方頑張ってください。 ・継続をお願いします。
	家庭学習を充実させるための手立てを講ずる。	・生徒、保護者による家庭学習アンケートで「家庭学習が充実している」が80%以上である。	・NRTテスト、みやざき学力調査、県国・県数・県英テストの結果分析を行う。 ・テスト学習支援プログラムに全校で取り組み、生徒の主体的な学習習慣や態度を育み、学力の向上を図る。	3	定期テストへの学習対策として、校内研究と連携しドリカムシートに全校生徒で取り組んでいる。家庭学習の取組改善の効果が期待されるが、継続していくことが必要である。		・家庭学習は、小学校の時から癖付けをしないと難しいです。TVリビングが良いと言われてますが、リビングで勉強している生徒は、何人いるのでしょうか？効果は上がるのでしょうか？ ・学校における授業と家庭学習の一体化を図る必要がある。授業でよくわからない学習を家庭学習において、時間をかけて納得いくまで、調べ学習等を行い、定着につなげていく宅習の在り方の工夫が強く求められる。日常における家庭学習の習慣化を図る学校の手立てと訓練が求められる。 ・個人差の大きい課題でもあるので、家庭と連携、先生方の日常の点検指導で、家庭学習の充実を図ってください。 ・家庭との連携を引き続きお願いします。

評価項目	評価指標	具体的数値目標	方策・手立て	自己評価 指標別 総合	結果の考察・分析及び改善策	評価	学校関係者評価コメント
德育	心の教育を推進し、生徒の規範意識の醸成を図る。	生徒の良さを認め伸ばす指導を推進し、生徒の自己肯定感を高める。	・生徒による学校生活アンケートで『生徒一人一人のよさや可能性を伸ばす』が85%以上である。	3	アンケートによると、3・4段階が79%と目標にやや届いていないが、内訳を見ると3年生が肯定的な割合が最も多くなるので、粘り強くよさを認める指導を3年間で続けていきたい。保護者は3・4段階が84%の評価である程度学校の状況を理解してもらえていると考える。授業時も含めて、一人一人のよさを生かす個別に支援していくことや、生徒との対話の機会を増やしていきたい。		・パソコン画面と向き合う時間が多く、生徒と向き合う時間が少ないけど先生方の生徒への想いは十分ある。 ・アンケートの結果によると、数値目標より低い結果になっているが、3年生の割合が最も高かったのは評価できる。各発達段階をどのようにスキルアップすればよいか再検討する必要がある。また、保護者の意識の高さと84%の評価数値結果は、客観的に考慮してもとても評価できると考える。 ・先生方もよく努力され、保護者も信頼しているということが、評価に表れています。日常的に生徒とともに歩む教師ががんばってください。 ・特に生徒会活動がよく機能していると感じる。
	Q-U検査の結果をもとに、全職員で生徒一人一人に適切な指導、支援を行う。	・分析結果で学校生活満足群の生徒の割合が60%以上、不満足群の生徒が10%未満である。	・学級の状況を分析し、指導と生徒の状況のマッチングを図り、具体的手立てを研修を通して学ぶ。また、学年全体で注意すべきことを共通理解・共通実践をしていき、満足群が増え、不満足群を減らすための努力を行う。特に1年生では2回調査することで、変容を見た後、指導の手立てに生かす。	2	Q-Uの6月集計結果によると学校生活満足群の生徒の割合が平均52%（1年53%、2年49%（昨年57%）、3年56%（64%））で、不満足群の生徒が平均21%（1年23%、2年24%（昨年16%）、3年15%（14%））いた。特に1・2年で心配な結果である。夏季休業中にも研修を行い、指導と生徒の状況のマッチングを図る努力や学級づくりを継続して行っていきたい。1年は2回目の検査も行い、更なる改善を図り、来年度以降も継続して取り組んでいきたい。	3	・1年女子に中学校は、軍人（軍隊）みたいと言われたことがあります。「やらされてる」と思っているのでしょうか。社会に出たときに大事なことだと話し、理解してくれるように言えば、満足群は増すと思います。 ・6月という時期で割合の低さは、いたしかたないのかもしれませんが。2回～3回と検査しその変容を図ってほしいと思います。 ・継続をお願いします。 ・科学的手法で客観性のあるQ-U検査の実施により、日常の指導の在り方と、その結果を明らかにすることができ、多変評価できる。結果分析をきめ細かにを行い、日々の指導実践の在り方と工夫改善を図り、継続して成果を積み上げていくことが大切である。今後の成果を期待したい。
	SCやSA、SSW等と連携し、いじめ、不登校等の未然防止と早期解決に努める。	・生徒による学校生活アンケートで『先生は気軽に相談に応じている』が85%以上である。 ・不登校数の減少を図るとともに、新規不登校者を出さないようにする。	・教育相談の時間をしっかり設定する。 ・いじめ防止基本方針について職員の共通理解を図り、生徒にも周知徹底を行う。 ・SCの活動を啓発し、保護者を含めた相談を増やす。	2	アンケートによると、3・4段階は80%であり、教育相談などを通してほぼ応じている状況である。しかし、生徒が自分から悩みを相談するような援助希求的態度も育成していく必要がある。また、保護者相談を行い、SCを初め専門機関とも連携を図るなど、いろいろな対策を講じているが、抜本的な改善に至らず、不登校者は減少していない。今後も粘り強く対応していきたい。	3 3 3 3 3 3 3 3	・不登校生徒と話をすると全員が全員、根源は小5の時の学級崩壊という。小5は義務教育の中で大事な時期なのか？愛のムチができないこともあり、言葉だけで通じないので難しい。SNSも問題である。 ・社会の多様化の中で、なくならない課題かもしれません。いじめ不登校の減少をめざして早めの取組、専門機関との連携など、継続的粘り強く対応していただきたい。 ・不登校生徒は大変でしょうが、関係者と連携を取り一人でも減らしてください。 ・不登校の生徒の原因究明は個人差があり、ポイントを特定して指導の成果をあげていくのは、きわめてむずかしい。関係機関及び保護者等と緊密に連携を図りながら、地道に継続して取組む必要がある。対象の不登校生徒へのきめ細かな配慮と指導が強く求められる。
	人権教育や道徳教育の充実を図り、健全な心の育成に努める。	・生徒による学校生活アンケートで『マナーや校則などルールを守ることが身についているか』『周りの友達に対して優しく接することを心がけているか』が85%以上である。	・生徒との対話、生活の記録を用いた心の交流、道徳の授業の充実、などを行う。 ・全校で講話や学習会を盛り込み、思いやりのある学級集団作りのためにQ-Uの結果も活用していく。また、いじめ対策委員会の活動も活性化させる。	3	アンケートによると、3・4段階は約95%という肯定的回答が得られた。学年を通して人権教育や道徳教育を工夫して行い、指導をすることで向上が図れていると思うが、一部生徒には人を傷つけるいじめのような発言が多く見受けられるので、今後も厳しく指導していきたい。また、学級集団作りのために、Q-Uを1学年は2回実施しているため、さらに指導の手立てを工夫していきたい。	3	・思いやりは感じない。 ・生徒たちの95%という評価に対して先生方は、63%というやや厳しい見方がされています。まだ、生徒たちの様子が表面的で、本当に意識されていないということでしょう。その先生方の目で、さらに人権教育、道徳教育に力を入れていってほしいと思います。 ・マナー・ルールでは下校時に「道路や歩道に広がって歩かない」の基本事項ができていないようです。 ・生徒の学校生活アンケートの結果では、3・4段階で95%と大変高い回答数値が得られており評価できる。人権教育や道徳教育の根幹に関わる「人間尊重の教育」は、必須の課題であり、心の教育充実にも努める必要がある。なお、日常における生徒の心の教育は、全職員の共通理解と共通実践の継続が強く求められる。

評価項目	評価指標	具体的数値目標	方策・手立て	自己評定 指標別 総合	結果の考察・分析及び改善策	評定	学校関係者評価コメント
体育・食育・健康教育	健康に対する関心を高め、健康で安全な生活を送ろうとする実践力を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・立腰指導徹底100%を目指す。 ・新体力テストの上体起こしで県平均を上回る。 ・健康教室出席率85%を達成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒による立腰集会、立腰指導の実施、立腰アンケートの実施。 ・授業ウォーミングアップで腹筋運動の実施。 ・PTAの保体部会で積極的に呼びかけを行う。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・立腰に関するアンケートをもとに、生徒が主体となって、立腰指導集会をおこなった。全校生徒で立腰の効果などを意識することができた。 ・授業のウォーミングアップで行ったが、県平均を上回ることができなかった。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・立腰はきちんとできている。 ・令和元年度の新体力テストの結果は、特に「上体おこし」「50m走」の学校偏差値は50に満たず、今後の具体的対策が求められる。立腰指導は、日常授業や集会等で意図的計画的に実践されていることは評価できる。中学生になれば、健康への関心や自立心も出てくるので、できるだけ主体的な取組を尊重して実践していれば成果もあがると考える。 ・立腰の取組は、先生方の熱意ある指導に対して、生徒の意識は、低いようですね。短期間で成果があがるものでもなく、生涯の体づくりの基本として継続指導で学校生活での日常化として頑張ってください。 ・継続してください。
	朝食100%摂取、給食の残食ゼロを目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食アンケートで朝食摂取100%を目指す。 ・給食の残食調査において、残食0を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの課題として、次のいくつかを行わせる。①元気の出る朝ごはんを作り、レシピを提出する。②夏休みのクッキングイベントに参加する。以上を選び、生徒の意識づけを行う。 ・給食委員会の取組で給食準備時間を早くし、食べる時間を確保する。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食アンケートはこれから行う。 ・夏休みに行われたクッキングイベントも多く生徒が参加し、充実したものになった。クッキングイベントの写真を廊下に掲示し、生徒の意識づけを行っている。 ・本年度、例年に比べると残食の量が多く感じる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・育ち盛りの中学生なので、食べさせたいのはありますが、まずいものはまずいと給食センターに知ってもらう為にも残食があってもいいと思う。朝食を抜いてきた生徒は機嫌が悪いですね。 ・朝食は菓子パンではなく、ご飯とみそ汁は必須であると考えられる。成長期の生徒の朝食は、極めて大切である。学校の取組の視点は素晴らしい。しっかりと実態把握し、対策を講じてもらいたい。夏休みのクッキングイベントは、特筆すべき取組で評価できる。生徒への大きな意識付けにつながる。給食の残食が多い原因の分析とその具体策を図る必要がある。 ・生きることは食べること当然100%あたりまえのことと目指さなければならないことだと思います。1、2の回答を出す、生徒への個別指導を望みます。 ・残食は、メニューとして何がが多いのか？加納中のみなのか？他の学校（清武中）ではどうなのか？他に多いのであれば、学校給食センターとの協議も必要ではないでしょうか？
	弁当の日の実践をとおして、食に対する関心と感謝の心を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の生徒が作るお弁当の日を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭科の時間に1.2年生は地域の食材を使った弁当作りを実践する。 ・食育指導を段階的に行い、実践項目のレベルアップを図る。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度1年生が南九州大学の協力を得て、パワーアップ・スマートライフ教室を行っており、朝食の大切さなどを親子で学習している。回を増すごとに朝食の内容が充実していることがわかった。 ・地域の食材を使った弁当づくりは1月か2月に実施する予定である。 ・生徒が作るお弁当の日は2回実施することができ、到達項目で評価することができた。 		<ul style="list-style-type: none"> ・良い専門教科（家庭科）により、食育の補充・深化・統合が図られ、評価できる。特に地域の食材を用いた弁当作りは、地産地消の観点からも大変評価できる。更に、関係大学の協力を得て、朝食に係る親子学習は素晴らしい。今後一層の工夫・改善を図りながら継続できると大きな成果が期待できると考える。 ・3年間の中で食に関心を持たせる実践取組は、生徒の今後の食生活にきつと生きるためになるでしょう。関係機関との取組を今後も探っていくてください。 ・弁当の日はとてもいい取組です。もう少し回数は増やせないでしょうか？ ・「弁当の日」は大切な事と思いますが、栄養のバランスについての指導もお願いします。
	安全意識を高め、行動できる力を育てる安全教育を推進する。（避難訓練の工夫、危険予測学習等）	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練年2回、シェイクアウト訓練年4回、交通安全教室年1回を行い、全生徒の安全・防災意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全、防災に関する訓練を計画通り行うことで、日頃から地震、津波その他の危険に対して備える。 ・いろいろな場面における危険を予測し回避する力を育てる安全教育をおこなう。 ・生活委員会を中心に施設点検活動を行い、徹底を図る。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練は年2回とシェイクアウト訓練はこれまで2回実施し、生徒の防災意識を高めることができた。残り2回は11月と2月に実施予定。5月に実際に地震が発生したときにシェイクアウト訓練の実践ができ防災意識が高まった。 		<ul style="list-style-type: none"> ・いつ、何時に地震や火災が起きるかわからないので、いろんな状況での訓練をしてほしい。町づくり主催の防災訓練、避難訓練にたくさん生徒が参加しているのが素晴らしい。（とても良い） ・日向灘地震・南海トラフの問題が喫緊の課題として各種の対策が講じられる状況の中で、日頃から学校をあげて意図的計画的に実践されていることは大変評価できる。特にシェイクアウト訓練の実施は、万一の場合、大きな成果があると考える。 ・命を守る安全教育は、学校での繰り返しの指導で、その基礎・基本が身につけていくものだと思います。計画的に実践されていると思います。 ・登下校時の安全教育も必要ですね。

評価項目	評価指標	具体的数値目標	方策・手立て	自己評価 指標別 総合	結果の考察・分析及び改善策	評定	学校関係者評価コメント
家庭や地域と連携し、信頼される学校づくりを推進する。 学校環境整備充実	授業等において地域人材の積極的な活用を図る。	・地域人材100%活用を目指す	・教科において活用可能な教材を精選し、地域の人材を生かした授業の充実を図る。	3	職場体験学習では、地域の事業所を活用することができた。家庭科の授業において、裁縫の実習や調理実習の中で、地域人材を効果的に活用することができて良かった。		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒にとって良い体験になりますので、とても良い。 ・授業に地域の人材を活用することにより、授業の質が高まり、生徒は、より興味をもって取り組み、成果をあげることができると考える。教科、領域等、幅広い活用を図ることにより、授業の専門性や幅が広がり、とても評価できる。 ・清武あるいは加納地区を“ふるさと”と意識をもてるような地域学習を掘り起こして行ってもらいたい。 ・地域の事業所にて加納中の職場体験を目にすることがありましたが、皆よく頑張って対応していました。 ・継続をお願いします。
	学校ホームページや学校だより等を活用し、地域への情報発信を行う。	・保護者アンケートで、「ホームページを見る、学級通信・学校便りを読む」が90%以上。	・学校ホームページを定期的に更新し、学級通信を毎週、学年通信や学校便り、保健便り、生徒指導だよりを毎月発行する。 ・通信ファイルを活用し、保護者との情報交換を行う。	3	学校便り、保健便り、生徒指導だよりは定期的に発行することができた。学級通信はほとんどの学級が定期的に発行することができた。ホームページは、行事ごとに更新するなど、今後も情報を発信していきたい。		<ul style="list-style-type: none"> ・とてもよい。 ・学校経営をはじめ、本校の全ての教育活動のポイントを各種の手段を活用して発信し、各家庭や地域に常時、開いていくことは、極めて大切であり、とても評価できる。 ・回覧板で回ってくる学校便りを通して加納中の頑張りを感じます。どしどし情報発信し、加納中の存在を高めていってほしいです。 ・継続をお願いします。
	学校関係者評価を活用し、学校運営の改善に努める。	学校関係者評価委員会を計画的に行い、評価委員の方々の意見を伺う機会を多くもつ。	・学校行事（入学式、体育大会、文化発表会、立志式、卒業式等）への案内を出し、評価委員の方々が学校に来られやすいようにする。	3	計画的に学校関係者評価委員会を実施することができた。いろいろな学校行事等に来られた時に意見を伺うことができ、今後の取り組みの参考になった。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・良かった。 ・立場の異なる学校関係者評価委員は、それぞれの考えや視点から、卒直な意見を述べて、本校運営の改善につながり努力している。今後より一層の運営の改善を図るため緊密な連携が強く求められている。 ・文化発表会合唱コンクールに参加させていただいた。とても素晴らしく感動的でした。生徒たちの様子から加納中の教育がうまく機能しているのを感じました。 ・継続をお願いします。
	地域の関係諸機関と連携した学校運営を推進する。 (まちづくり協議会、青少年育成協議会、加納中協力者会等)	・地域と一体となって学校づくりを行うため、会合や協議会等に積極的に参加する。 ・地域へのボランティア活動に生徒会を通じて全校生徒の60%参加を促す。	・加納地区まちづくり協議会、青少年育成協議会、民生児童委員協議会、等との連携を深める。 ・地域のボランティア活動の内容について職員が理解し、生徒への参加を促す。	3	各協議会と連携しながら、地域の行事等にも積極的に参加することができた。また、八重川の清掃や清武郷土祭りなどのボランティア活動も熱心に参加し活動することができた。今後も地域と一体となった活動を推進していきたい。		<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりの活動に、生徒のボランティアの参加が多くとても良い。清武体育協会主催のすもう、縄跳び大会、マラソン大会にもボランティア参加あり、助かってます。 ・地域の関係機関・団体等との緊密な連携が円滑に図られており、生徒の人材育成に係る幅広く、深みのある指導がきちんとできていると評価できる。本校生徒の地域におけるボランティア意識の高揚は、日常における家庭・地域等との緊密な連携と指導の賜であると考えます。 ・3年間の中学校生活で地域、ふるさとを体験できる活動には、どしどし参加させてください。 ・素晴らしいことだと思います。 ・ボランティアへの参加ありがとうございます。今後も継続をお願いします。